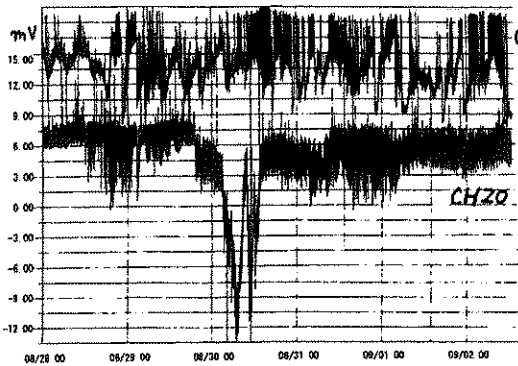


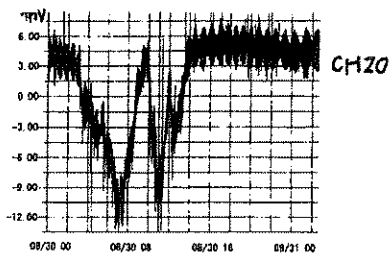
原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

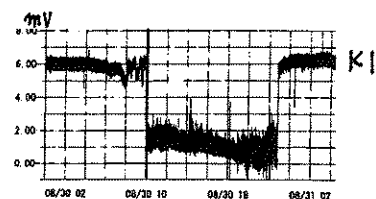
No.1778 長期継続特殊前兆 現況報告 8/26・8/30に小ピーク観測



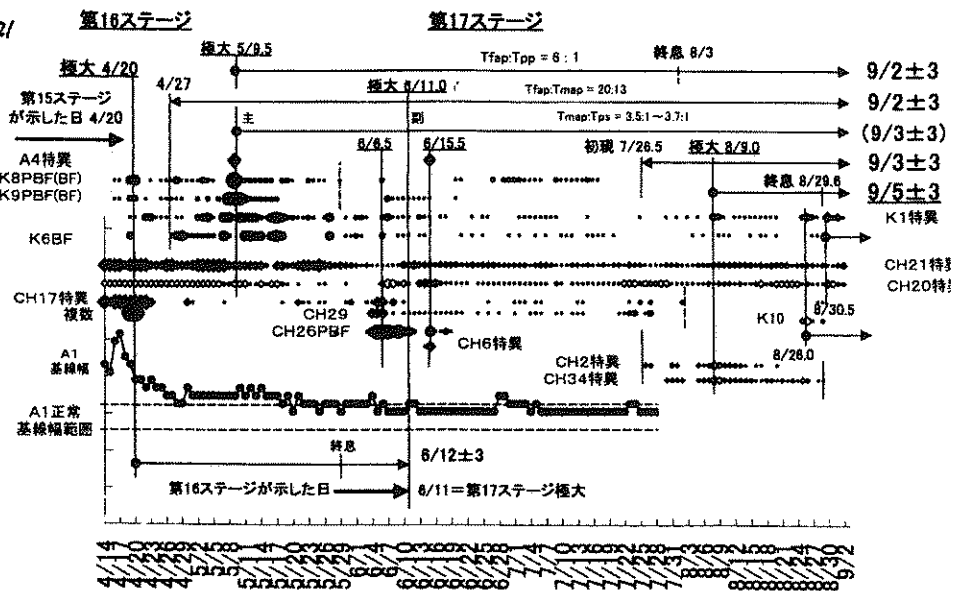
8/26~9/2 CH20, CH21. 基線の状態



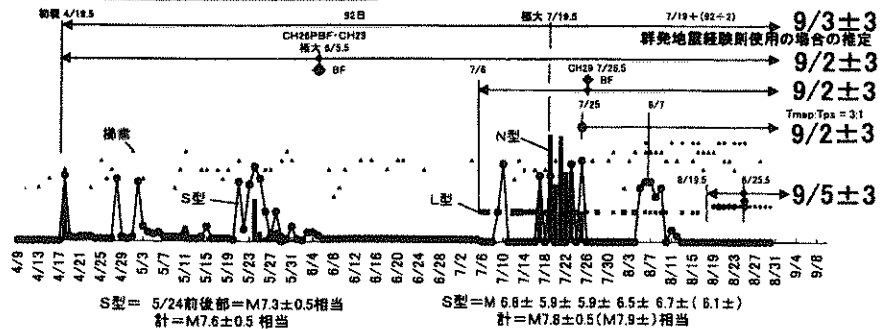
8/30 CH20特異小ピーク



8/30 K1 特異小ピーク



火山帯近傍地殻地震・火山前兆



前情報では、No.1778地震前兆第17ステージの前兆関係認識および、No.1778関連認識火山性前兆の前兆関係から、09月04日or05日に対応活動発生の可能性が示唆されることを報告致しました。

但し、09月04日or05日対応活動発生となる場合には、09月02日夜までに前兆終息(主にCH20, 21)が確認されることが条件でした。

しかし、その後、右上図に記したとおり、複数の小ピークが観測されました。左上トップの基線はハヶ岳のCH20とCH21ですが、CH20は、高知観測点のK1と同日である8/30に特異状態の小ピークを形成しています。CH20基線も8/30以降、変動もやや大きい状態で継続しています。CH21も8/30からやや変動の大きな特異状態が継続しています。とても本日夜返に前兆が終息する状況ではありません。

仮に他の観測装置前兆の関係から示される様に、09月05日±時期に対応活動が発生となる場合には、本日迄の最終小ピーク8/30.5に対する前兆終息は、9/04となる可能性が計算できます。誤差範囲で9/7対応活動発生となる場合には、前兆終息は9/5終息の可能性が計算できます。

本日9/2 午前11時~15時30分まで、ハヶ岳のCH21の基線が糸状態で継続致しました。単独ですが、仮に9/2.6に小ピークがある場合、9/5~9/7 対応活

動発生の場合には、静穏期間(Tpp)は0.7日~1.2日しかありません。09月07日の場合には、一日猶予がありますが、09月05日の場合には直前迄前兆が消えないこととなります。

現在までの状況で、09月05日~07日に対応活動が発生する可能性を強く否定する根拠前兆変動はありません。推定時期に複数が見るとおり発生となるか、新規極大や新規前兆が出現するか、ぎりぎりまで前兆の変化を観測します。

No.1778前兆推定地震

- ◆推定領域：右図太線領域内付近 (やや火山帯に近い領域の可能性)
- ◆推定規模：M7.8 ± 0.5 (※群発的地震活動の可能性有)
- ◆推定時期：9月5日~7日  
※但し9月7日時点で前兆継続又は新規前兆・極大出現の場合は発生はより先となる為、続報。
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻
- ◇推定発生時刻：AM9:00 ± 1 (or PM6:00 ± 3)



Copyright 2016 YSBOハヶ岳南麓天文台

※E-mail or FAX で日々配信しております地震前兆観測情報では静穏化報告は間に合う可能性がありますが、HPでは更新が間に合わない可能性が高いと思われます。お許し下さい。9/7 時点で前兆継続の場合は、あらためて続報は報告させていただきます。